集う、創る、叶える、ふくしまで。

福島イノベーション・コースト構想推進機構

国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」を推進する中核的な機関として、福島県が設立した「福島イノベーション・コースト構想推進機構」。私たちは福島復興再生特別措置法の「福島復興再生計画」に基づき、みなさまとともに様々な取組を行い世界に誇れるふくしまの未来を実現していきます。

推進機構の主な取組

産業集積・ビジネスマッチング

- 浜通り地域等への企業誘致
- 進出企業と地元企業とのマッチング
- 企業の新ビジネスの立ち上げ支援
- 民間企業等の農業参入支援

企業立地セミナー

新分野展開ビジネスセミナー

拠点施設の管理運営

- 福島ロボットテストフィールドの運営
- 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営
- 拠点の利活用について県内外にPR
- 陸海空ロボットのナショナルセンター化

福島ロボットテストフィールド

東日本大震災・原子力災害伝承館

教育・人材育成

- 産業界及び研究機関等と連携した高等学校等での教育の実施支援
- 市町村と連携した大学等の教育研究活動支援

イノベーション人材育成
（磐城高校×福島エコクリート）

浜通り地域等の農業の現状を学ぶ
エクステンションツアー（東北大学）

情報発信

- 県民等への構想のわかりやすい情報発信
- 県外からの呼び込みに向けた構想の魅力発信

構想WEBサイト

シンポジウム

交流人口の拡大

- 浜通り地域等の各拠点への来訪者呼び込み
- 浜通り地域等への移住定住促進

浜通り地域等を視察するツアー

移住・定住促進のための
モニターツアー

福島イノベーション・コースト構想の経過

平成26(2014)年6月
◉「福島イノベーション・コースト構想研究会」報告書取りまとめ
◉「経済財政運営と改革の基本方針2014(骨太の方針)」で構想が初めて明記

平成29(2017)年5月
◉「福島復興再生特別措置法」が改正、構想が法定化
◉福島県が「福島イノベーション・コースト構想推進本部」設置

平成29(2017)年7月
◉一般財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構設立
◉第1回「福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議」(総理出席)

平成30(2018)年4月
◉福島復興再生特別措置法「重点推進計画」の内閣総理大臣認定

平成31(2019)年1月
◉福島イノベーション・コースト構想推進機構 公益財団法人に移行

令和元(2019)年12月
◉「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」取りまとめ

令和2(2020)年5月
◉福島復興再生特別措置法「重点推進計画」の内閣総理大臣変更認定

令和3(2021)年4月
◉福島復興再生特別措置法「重点推進計画」が再編、「福島復興再生計画」の中に位置付けられ、内閣総理大臣認定

福島イノベ機構
公益財団法人
福島イノベーション・コースト構想推進機構
〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル6階　https://www.fipo.or.jp

公式Web　Instagram　Facebook　Hama Tech Channel

2022.3　協力：福島県・復興庁・経済産業省

※本パンフレット掲載の情報は、2022年2月28日現在のものです。

2022 浜通り地域等の産業基盤を構築する国家プロジェクト

福島イノベーション・コースト構想

Fukushima Innovation Coast Framework

集う、創る、叶える、ふくしまで。

福島イノベ機構

各分野の研究拠点を活用し、先端産業の集積を推進しています。

「福島イノベーション・コースト構想」とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。

福島イノベーション・コースト構想　主要プロジェクト

Fukushima Innovation Coast Framework

プロジェクト1

国内外の英知を結集した技術開発

廃　炉

詳しくは 5〜6ページへ

廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「楢葉遠隔技術開発センター」

廃炉に向けた研究開発・人材育成を行う「廃炉環境国際共同研究センター」

放射性廃棄物の処理・処分に向けた分析研究を担う「大熊分析・研究センター」

プロジェクト2

福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積

ロボット・ドローン

陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した福島ロボットテストフィールド

2021年にロボットの技術やアイディアを競う「ワールドロボットサミット」を開催

ロボット・ドローンの実証試験や操縦訓練の場として、浜通り各地を仲介

詳しくは 7〜12ページへ

プロジェクト3

先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

エネルギー・環境・リサイクル

浜通り地域等全体において、再生可能エネルギーの計画的かつ円滑な導入促進を図るとともに、太陽光発電や風力発電が連系する共用送電線を整備して再生可能エネルギーの導入を加速化

燃料電池自動車等の水素モビリティの普及に対応する水素ステーション

詳しくは 13〜14ページへ

プロジェクト4

ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

農林水産業

詳しくは 15〜16ページへ

ICTを活用し、浪江町の花卉栽培拡大に取り組む

肥育途中でも高い精度で枝肉の品質が診断できる技術の開発

県産木材の需要拡大、林業再生を目的に、付加価値の高い集成材を製造する「福島高度集成材製造センター（FLAM）」

プロジェクト5

技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

医療関連

詳しくは 17ページへ

浜通り地域等の企業等への技術移転やコンサルティング支援等により医薬品関連産業の集積を目指す「医療－産業トランスレーショナルリサーチセンター」

医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設「ふくしま医療機器開発支援センター」

企業へのマッチング、コンサルティング支援による医療機器分野への参入促進や、更なる技術開発への支援など、事業化への積極的な支援を実施

プロジェクト6

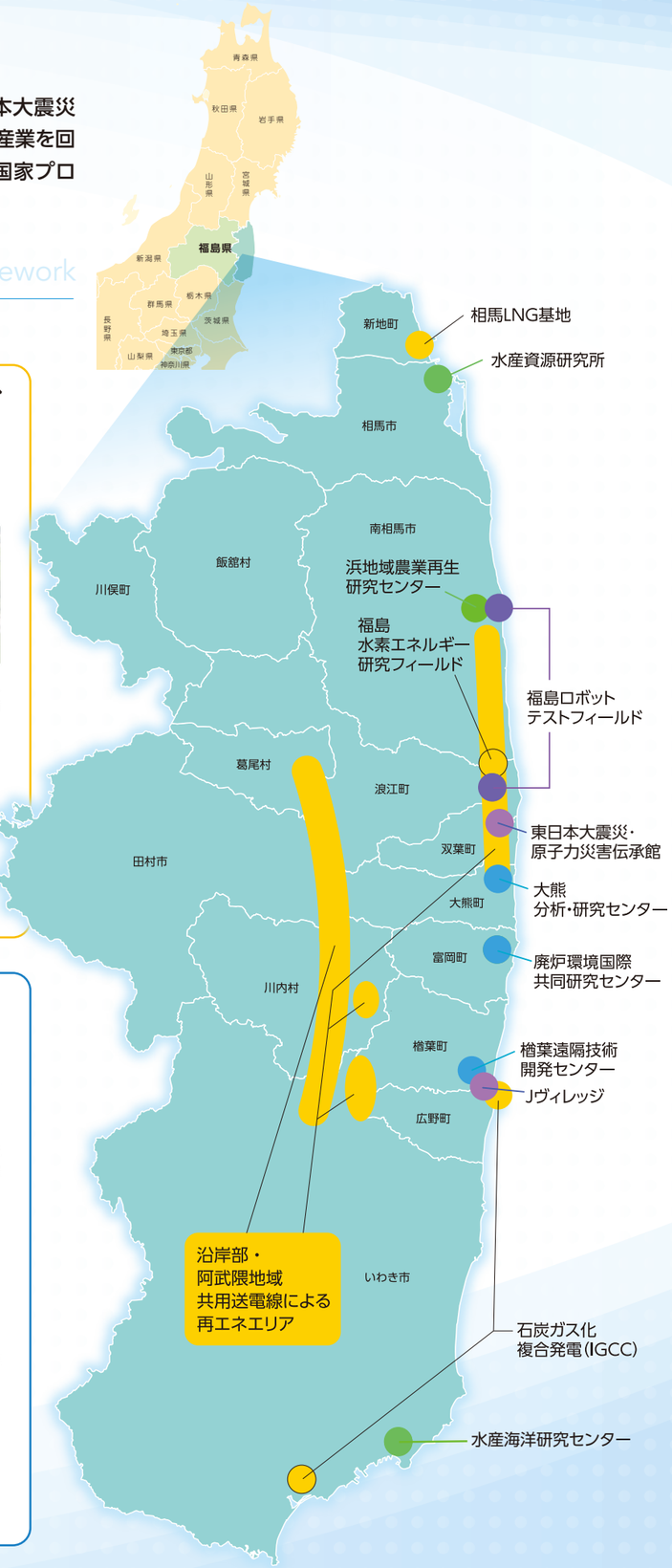
“空飛ぶクルマ”の実証や関連企業を誘致

航空宇宙

詳しくは 18ページへ

航空宇宙関連産業の技術交流や商談、普及啓発を目的に開催している「航空宇宙フェスタふくしま」

（株）IHI相馬事業所（航空エンジンや宇宙開発関連機器などの部品の製造拠点）



主要プロジェクトの具体化を進めるとともに実現に向けた環境整備に取り組んでいます。

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて

3つの柱

- あらゆるチャレンジが可能な地域
- 地域の企業が主役
- 構想を支える人材育成

新たな産業基盤の構築

拠点の整備及び研究開発の推進

【廃 炉】
- 廃炉研究拠点の活用
- 廃炉に向けた研究開発、人材育成

【ロボット・ドローン】
- 福島ロボットテストフィールドを中核とするロボット産業の集積
- ロボット・ドローンの開発・実証

【エネルギー・環境・リサイクル】
- 先端エネルギー関連産業の創出
- 環境・リサイクル産業の集積と事業実証

【農林水産業】
- ICTやロボット技術を活用した農林水産業の実践

【医療関連】
- 医療関連産業の集積による地域課題の解決

【航空宇宙】
- 航空宇宙産業への新規参入支援と技術の高度化

実現に向けた取組1

産業集積

詳しくは 19〜22ページへ

企業誘致と地域内外企業のマッチングを推進

全国随一の優遇制度や立地環境をPRするための企業立地セミナー、現地視察ツアーを実施

事業化を目指す企業に対する開発成果の発表会を開催(伴走支援)

異業種間の連携、地域間の連携、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指して設立した「福島イノベ倶楽部」

廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の各分野の具体化を進めるとともに、その実現に向けた産業集積や人材育成、交流人口の拡大、情報発信など多岐にわたる環境整備に取り組んでいます。

Fukushima Innovation Coast Framework

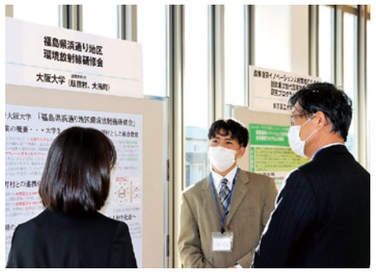
実現に向けた取組2

教育・人材育成

詳しくは 23〜24ページへ

浜通り地域等の未来を担う若い力を育てる

大学



大学や市町村等の関係者間で情報共有・相互交流を図ることを目的に実施した報告会でのポスターセッション

消費者行動を把握するための学生によるインタビュー調査(東京農業大学×相馬市)

高校・小中学校

大学、研究機関、イノベ関連企業等と連携し、イノベ構想を牽引する人材の育成(相馬高校×ブリティッシュヒルズ)

地域に対する“思い”を育み、イノベーションを起こす原動力となる最新技術等の学習を推進(ふくしまスーパーサイエンススクール/田島小学校×お茶の水女子大学)

実現に向けた取組3

交流人口の拡大

詳しくは 25〜28ページへ

構想に共感する人々の輪を広げる

浜通り地域等の復興の状況と構想の取組について「来て」「見て」「知って」いただくためのツアー

地域団体と連携し、ワーケーションを試行

実現に向けた取組4

情報発信

詳しくは 29〜30ページへ

構想の認知度アップで参画を促進

複合災害の記録と記憶を教訓として将来に引き継ぐ施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」

WEBサイト等により構想の取組を広く発信

プロジェクト1

国内外の英知を結集した技術開発

廃　炉

浜通り地域等の復興に必要不可欠な廃炉を進めるため、国内外の英知を結集し、研究開発と人材育成を進めるとともに、取組の効果を産業面にも波及させ、浜通り地域等に産業の集積を図ります。

原子炉建屋内部に存在する様々な環境を模擬した試験を行う

楢葉遠隔技術開発センター（NARREC/楢葉町）

日本原子力研究開発機構では、福島第一原子力発電所（1F）の廃炉推進のために、試験棟にモーションキャプチャやモックアップ階段、ロボット試験用水槽など、ロボットの性能評価や操作訓練を行うことができる様々な設備を備えています。また、実規模試験エリアでは1Fに存在する設備をフルスケールで設置し試験することができ、2022年2月から原子炉の実寸大模型で燃料デブリの取り出しに用いるロボットアームの試験を実施しています［写真は試験棟（幅60m×奥行80m×高さ40m）内部］。

廃炉を進めるための分析を行う

大熊分析・研究センター（大熊町）

放射性物質分析・研究施設第１棟は、廃炉を進めるために、事故で発生したガレキ類、焼却灰、水処理二次廃棄物等の分析を行う施設です。現在、建設を進めています。

国内外の英知を結集する拠点

廃炉環境国際共同研究センター（CLADS/富岡町）

国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築して、原子力発電所の廃止措置を推進します。

取組事例紹介

廃炉を担う人材育成

廃炉創造ロボコン

全国の工業高等専門学校等が参加し、廃炉をイメージしたロボットの製作を通じて、学生の廃炉に関する興味の喚起と創造性の涵養を図ります。現地開催となった第6回では、小山工業高等専門学校が最優秀賞を受賞しました。
（写真：2021年開催の第6回）

県内企業の廃炉関連産業参入を支援

県内企業の福島第一原子力発電所における廃炉関連産業への参入を促進するため、（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構、（公社）福島相双復興推進機構、東京電力HDの３者が連携し2020年7月にマッチングサポート事務局を設立。現在140社を超える県内企業に登録いただき、135件の成約を支援（2022年1月末時点）。

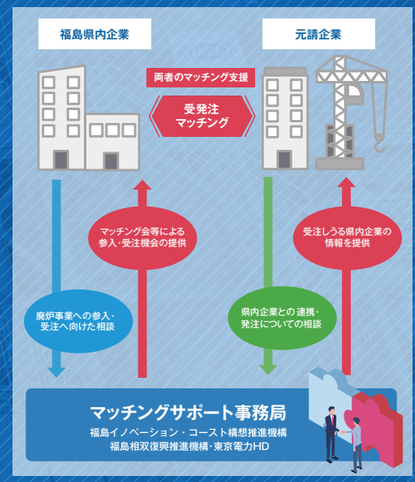
＜主な活動内容＞

①マッチング機会の提供
→マッチング会や個別商談によるマッチング機会を提供。

②廃炉スタディツアーの開催
→福島第一原子力発電所構内の現地視察・現状説明等を実施。

③従業員の資格取得に係る助成
→廃炉関連分野に係る資格取得費用の助成。

④東京電力・元請企業と県内企業の交流会の開催
→受発注業者間の相互理解を促進するための交流会を開催。



マッチング会

マッチングサポート交流会

廃炉スタディツアー

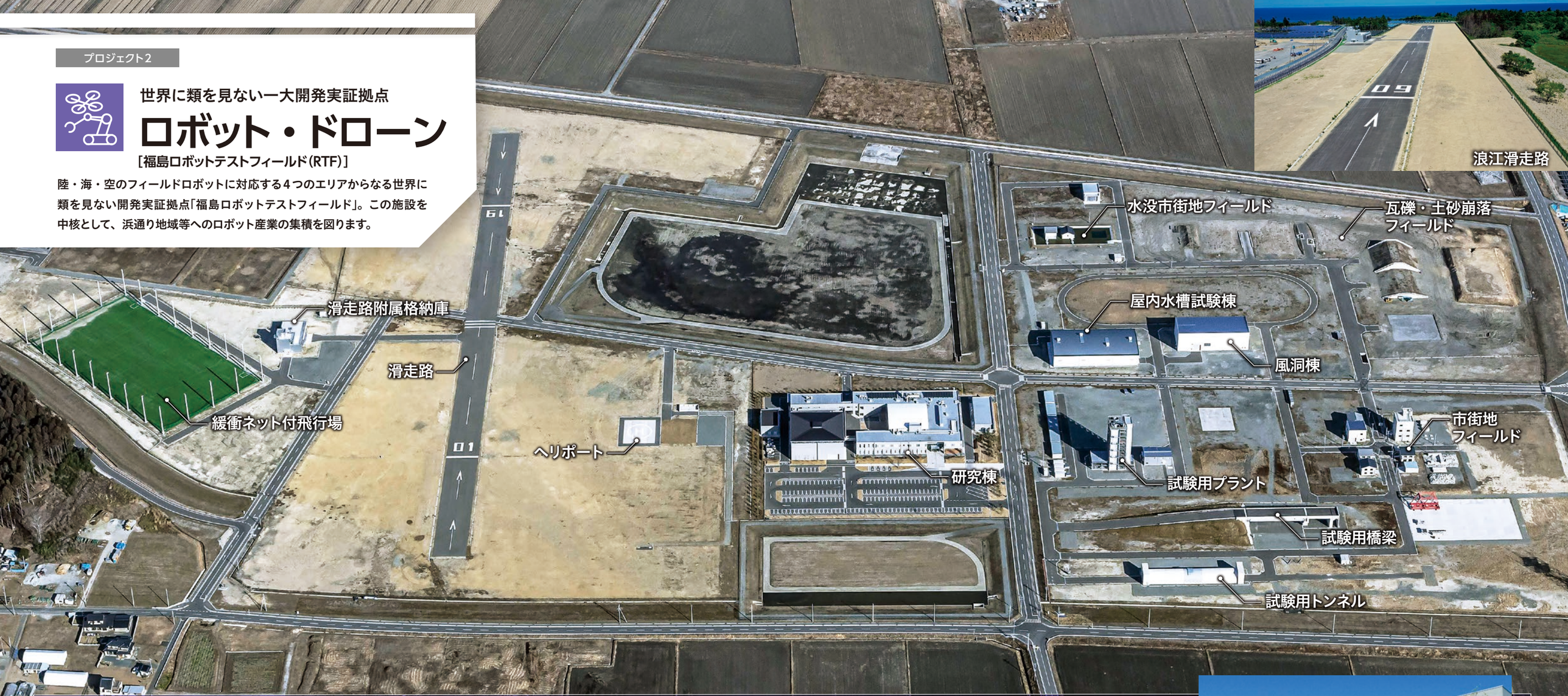
プロジェクト2

世界に類を見ない一大開発実証拠点

ロボット・ドローン

［福島ロボットテストフィールド（RTF）］

陸・海・空のフィールドロボットに対応する4つのエリアからなる世界に類を見ない開発実証拠点「福島ロボットテストフィールド」。この施設を中核として、浜通り地域等へのロボット産業の集積を図ります。



陸・海・空の使用環境を再現

福島ロボットテストフィールド

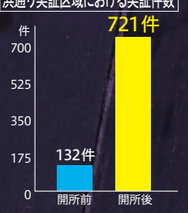
南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」と、浪江町棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路を設けています。

福島ロボットテストフィールドのデータ

開所前　～2018年7月20日
開所後　2018年7月20日～2022年1月31日

来訪者数

浜通り実証区域における実証件数



開発基盤エリア

福島ロボットテストフィールドの中核となる研究棟の「研究室」には、全国から19の大学や企業等が入居しています（2022年1月現在）。また、研究棟内に併設する福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センターは、技術相談・設備使用（加工機器、分析機器等）・試験分析など、企業に寄り添った支援を行っています。

あらゆる災害環境、老朽化を再現

インフラ点検・災害対応エリア

ダム、河川、水没市街地、港湾等を再現

水中・水上ロボットエリア

国内最大の飛行空域を備える

無人航空機エリア

最新のロボットやドローンが大集合！

「ロボテス縁日」開催

ロボットやドローンとふれあい、親しみを感じていただく「ロボテス縁日」が開催され、多くの地域住民に福島ロボットテストフィールドへの理解を深めていただきました。

※事業実施団体：（株）福島民報社

国内外から参加者が集い競技を繰り広げた

「ワールドロボットサミット」開催

国際的なロボット競技会である「ワールドロボットサミット」のうち、インフラ・災害対応カテゴリーを2021年10月に福島ロボットテストフィールドで開催しました。「トンネル事故災害対応・復旧チャレンジ」では、会津大学が3位に入賞したほか、「災害対応標準性能評価（STM）チャレンジ」では、南相馬ロボット産業協議会が2位、会津大学が3位に入賞しました。

INTERVIEW インタビュー　南相馬ロボット産業協議会

「MISORA」の技術でロボットをオーダーメイド

南相馬ロボット産業協議会
会長
五十嵐（いがらし） 伸一（しんいち）さん

災害対応ロボット「MISORA」

私たちは、「メイド・イン・ミナミソウマ」の技術を世界に発信するため、金属部品や電気回線を製造する地元企業の英知を集めて、災害対応ロボット「MISORA（ミソラ）」を作りました。2021年10月に開催された「ワールドロボットサミット」の競技会では、他チームの機体が故障する中、MISORAは大きなトラブルもなく最後まで競技をやり遂げ、世界2位の座を勝ち取ることができました。

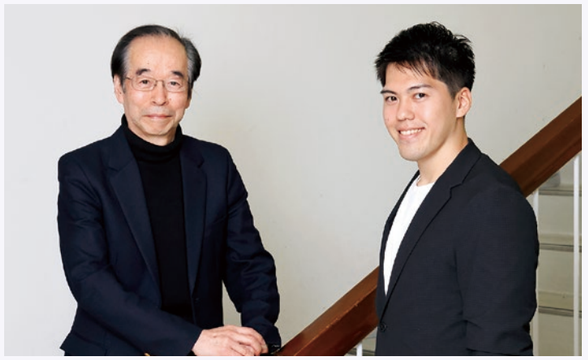
MISORAの特徴の一つは、瓦礫の上などの悪路、急斜面を想定して機体の重心を低くしていること。また、災害が発生した時を想定し、誰もが直感的に操作できるように、機体を模したコントローラーを作り、アームやハンドなどを操縦しやすい構造にしたことです。今後は、メカニック、電気回線、ソフトウェアの各要素の技術を市内外に広め、「こういうロボットがほしい」というニーズに合う機体を作っていきたいと考えています。また、MISORAのブランド化にも挑戦し、南相馬ロボット産業協議会各社に目が向けられるようにしていきたいです。

本体の動きと連動するコントローラー

❖ 対　談

国内・海外で開発競争が激化している「空飛ぶクルマ」。テトラ・アビエーション株式会社は、福島ロボットテストフィールド（RTF）を主な舞台に、空飛ぶクルマの一つであるeVTOL（電動型垂直離着陸機）の開発を進めています。空飛ぶクルマは社会にどのような変化をもたらすのか、RTFはどのような役割を果たすのか――かつて人々が思い描いた未来を引き寄せる開発の現状をお話しいただきました。

「空飛ぶクルマ」が連れてくる新しい世界と福島の未来



福島ロボットテストフィールド
所長
鈴木（すずき） 真二（しんじ）

×

テトラ・アビエーション株式会社
代表取締役
中井（なかい） 佑（たすく）さん

<プロフィール>
東京大学名誉教授・特任教授 工学博士。
国内におけるドローン研究の第一人者。

誰もが思い通りに移動できる世界を目指して

中井　私たちが開発したeVTOL「Mk-5」は、ドローンを大型化して人が乗れるようにした航空機です。世界103カ国、800チーム以上が参加したアメリカの国際航空機開発コンペ「GoFly」で世界のトップ10に選ばれた技術に、新規設計を加えて試作した機体がMk-5で、現在3世代目です。100kmを30分で移動できます。

私は「GoFly」の存在を知った時に、これから空飛ぶクルマの時代が来るのかもしれないと興味がわきました。そして、空飛ぶクルマが社会実装されれば、移動の困難を減らし、時間を短縮することで、人々が多くの可能性を手にできるのではないかという思いを持ちました。これが一つのモチベーションになり、「GoFly」への参加を決め、開発に必要な知識を得るために鈴木先生の航空イノベーション講座を受講しました。

鈴木　2018年でしたね。その頃にはドローンが非常に身近なものになり、人を乗せて運ぶ能力も備えて「空飛ぶクルマ」と言われるようになっていました。アメリカでは、交通渋滞を回避する空飛ぶタクシーのような使い方ができないかという動きから始まり、その後個人の移動用の乗り物として開発が進んでいます。日本では、災害時や救急医療など緊急性の高い移動に活用できるのではないかと考えられています。また、シェアリングを導入すれば、個人が自由に移動できるようになる可能性もあります。

RTFから福島の新たな産業の創出へ

中井　ドローンやeVTOLの実証実験を行う場所はなかなかありません。ですからRTFという研究施設と出合い、重点的に使用させていただくことにしました。一方で、東日本大震災で被災した南相馬市が、どこを目指し、どんな産業を創出しようとしているのか、企業として自分たちが貢献できることがあるのか、そんなことも考えました。

鈴木　RTFは実験の場であるわけですが、私たちには、地域の方々と共に、ここから福島の新たな産業を立ち上げ、社会を変える原動力になりたいという思いがあります。テトラ・アビエーションのような企業に活用いただくことで、そこに近づけることを期待しています。

中井　将来を見据える地域の人々の思いに応えたいですね。

人々の安心があってこそ空飛ぶクルマは飛べる

鈴木　空飛ぶクルマを普及させるためには、安全性を証明していくことが重要です。現状では、安全基準や証明方法から検討していかなければなりません。2018年に発足した「空の移動革命に向けた官民協議会」でも社会実装に向けた検討がなされていますが、利用者の安全はもとより、人々の暮らしに不安を与えないという視点が大切です。

中井　そう思います。機体が優れた性能であっても、人々の理解がないと航空機は飛ばせません。Mk-5はすでに2021年7月から予約販売を開始しています。まずはアメリカで日常的な航空機の利用に慣れている方々に使っていただき、そのフィードバックを、よりよい製品づくり、環境づくりにつなげていきたいと思います。日本では、2025年に大阪で開催される国際博覧会でのお披露目を目指し、機体や運航管理の開発、実証実験などを進めています。楽しみに待っていただけたらと思います。

鈴木　空飛ぶクルマも含めロボットはこれからの日本にとって重要な産業技術です。今後は、これをいかに使いこなし、人と共存できる社会を作っていくかが求められます。実証実験や実装化への支援を通して、そんな社会づくりを支えるのがRTFの役目だと思っています。

プロジェクト2

最先端のロボット開発・実証の地

ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを始め、「浜通りロボット実証区域」では、災害対応や物流・インフラ点検等の分野で活用が期待されるロボットやドローンの研究開発・実証試験を積極的に誘致しています。

○一人乗りeVTOL"Mk-5"の飛行試験[テトラ・アビエーション(株)]
垂直離着陸時の冗長性検証や飛行システムの動作確認等を、屋内試験場および緩衝ネット付飛行場で行いました。

○ロボット・プログラミング教室[(株)リビングロボット]
福島ロボットテストフィールドでは、入居企業である(株)リビングロボットの協力により、同社が開発したロボット「あるくメカトロウィーゴ」を用いて、県内の小中学生を対象にプログラミング教室を開催しています。

©MODERHYTHM/Kazushi Kobayashi

○スクーバ潜水訓練(福島県警察機動隊)
災害現場、水難事故等における人命救助及び捜索活動のため、スクーバ潜水技能の向上を目的とした潜水訓練を屋内水槽試験棟で実施しました。

○福島県総合防災訓練
県内の消防、警察、自衛隊、海上保安庁などが参加し、台風災害やサリンなどの化学物質流出を想定した訓練を行いました。

震災以降浜通り地域等へ62のロボット事業者が新規進出

	進出事業者	新規参入の地元企業者数	合計事業者数
ドローン	27	8	35
固定翼無人航空機	3	0	3
空飛ぶクルマ	2	0	2
自動走行	5	1	6

	進出事業者	新規参入の地元企業者数	合計事業者数
災害対応・廃炉ロボ	10	1	11
農業用ロボ	2	0	2
産業・業務用ロボ	6	4	10
介護・リハビリ・コミュニケーション	6	0	6
水中ロボ	1	0	1

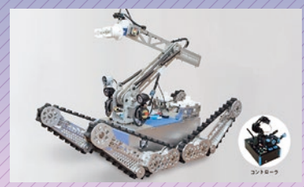
東日本大震災以前はなかったロボット事業者が、62事業者の新規進出、地元14事業者の新規参入により、浜通り地域等にロボット事業者の集積が着実に進んでいます(2022年1月末現在)。

取組事例紹介

大学の取組

会津大学は、福島ロボットテストフィールド内研究室に入居し、ロボットに関する研究開発及び産学連携の推進に加え、福島県のロボット産業及び人材の育成活動を行っています。

地元のサポート体制



(株)ゆめサポート南相馬は、地元の産業支援機関として入居及び利用企業と地元企業とのマッチングなど、新しいビジネスに繋がる支援を行っています。

地元企業の取組

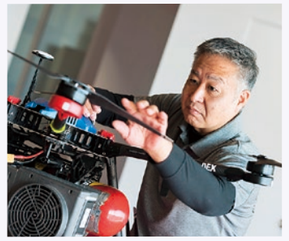
(株)eロボティクス、(株)東日本計算センターは、気象観測に向けた高高度3次元隊列飛行システムの開発を行っています。今後は風況調査、広域空撮・点検、防災分野などへの展開を予定しています。

INTERVIEW インタビュー 株式会社ロボデックス

水素燃料電池ドローンを社会実装し、ドローン事業の発展を目指す

株式会社ロボデックス
代表取締役
貝應(かいおう) 大介(だいすけ)さん

私たちは、産業用ドローンの開発・販売を手掛けています。これまでは、リチウムイオン電池を搭載したドローン、ガソリンを使ったハイブリッドドローンの開発を行ってきましたが、「ドローンを長く飛ばさないと産業への活用が始まらない」という思いから、長時間飛行を可能にする「水素燃料電池ドローン」を開発し、2021年11月に日本初となる試験飛行に成功しました。リチウムイオン電池のドローンは長くて15分程しか飛行できませんが、水素燃料電池を使用することによって、最大80分の飛行が可能となりました。また、バッテリー型やガソリンハイブリッド型のドローンに比べて、温室効果ガスの排出を抑えることができ、環境面にも配慮した飛行も実現しました。水素燃料電池ドローンには、燃料となる高圧水素のタンクを搭載していますが、地上150メートル上空から落下した場合に備えて安全対策を講じなければならず、経済産業省と国土交通省航空局からの認可が必要でした。そのために1年半を費やし、国内大手高圧タンクメーカーと衝撃吸収装置の開発と実証試験を繰り返し行いました。



水素燃料電池ドローンを調整する貝應さん

2021年11月の試験飛行の様子

無事に試験飛行を成功させることができましたが、これでようやくスタートラインに立ったところです。今後は、安全性と性能を保ちながら軽量化を図り、2時間の飛行が可能なドローン開発に取り組み、早期の社会実装を目指します。それには水素を安全に使えるルール作りが課題です。民間レベルで意見を持ち寄り、RTFの力を借りながら国に提言していこうと考えています。長時間飛行が可能なドローンで、国内のドローン事業の発展を加速させていきたいと思います。

プロジェクト3

先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

エネルギー・環境・リサイクル

再生可能エネルギーを核とした産業の育成・集積を図り、地域経済の復興・再生に取り組んでいます。
太陽光パネルや石炭灰等の先端的なリサイクル技術開発の取組等を推進しています。

世界有数の再エネ由来水素製造拠点

福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）

浪江町に立地するFH2Rでは、生み出された水素が、東京オリンピック・パラリンピック大会において、聖火台や聖火リレートーチ等の燃料として利用されたほか、県有施設や水素ステーション等でも活用されています。また、FH2Rを活用し、高効率で低コスト、かつ再エネの最大限の導入にも資する水素製造システムの開発をはじめ、水電解装置の更なる大型化や燃料電池トラック等に対応する大型水素ステーションに関する技術開発が進められるなど、FH2Rを核に福島県の水素社会実現に向けて更なる展開が期待されます。

取組事例紹介

2020 年度再エネ導入実績

2020年度の再エネ導入量が、県内の一次エネルギー需要と比較して43.4%まで導入が進み、福島県再生可能エネルギー推進ビジョンで掲げる中間目標（40%）を達成しました。2021年12月に改定した同ビジョンに基づき、引き続き再エネ導入を進めていきます。

水素を活用した新たな未来のまちづくり

県では2021年6月に、トヨタ自動車（株）などと水素を活用した新たな未来のまちづくりに向けた検討を開始しました。今後、燃料電池のトラックやキッチンカー、ドクターカーの運用などを通じて、世界に先駆けた水素社会の実現、カーボンニュートラルの実現に向けたチャレンジを進めていきます。

燃料電池トラック導入イメージ　出典：トヨタ自動車（株）

葛尾村スマートコミュニティ

村の中心部に太陽光発電設備と蓄電池、全長約5kmの送電線を建設し、村中心部に電力を供給しています。電気自動車と充放電スタンドを設置し、電力を村内交通にも活用するとともに、災害時には蓄電池と電気自動車のバッテリー利用により、村の防災力を高めています。

葛尾村スマートコミュニティ　出典：葛尾創生電力（株）

共用送電線の整備

福島送電（株）では、再エネの導入を促進するため、阿武隈山地等に総延長約80km超の共用送電線を整備しています。約53kmの区間において供用が開始され、約235MWの太陽光発電所が運転開始しています。

大熊開閉所　提供：福島送電（株）

風力メンテナンス拠点

（株）北拓は、いわき市内に風車メンテナンスのためのトレーニング施設や研究施設、遠隔監視施設等を兼ね備えた拠点を整備しました。今後、風車部品の修理等を始め、関係機関と連携した最先端研究や企業等を対象としたメンテナンス訓練を実施する予定です。

ふくしま再生可能エネルギー産業フェア

再生可能エネルギー関連産業の育成・集積に向けて、技術・情報の発信と商談・交流の場を提供することを目的に毎年開催しているふくしま再生可能エネルギー産業フェアは、地方最大級の再エネの展示会として、著名な講師などによるセミナーを始め、大手企業とのマッチングイベントなど多彩な催しを実施しています。

プロジェクト4

ICTやロボット技術等を活用した
農林水産業の再生

農林水産業

ICTやロボット技術等の開発・実証を進めるとともに、これらの先端技術を取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実施し、浜通り地域等の農林水産業の復興・再生を進めています。

柔軟かつ持続可能な農業に取り組む

完全閉鎖型植物工場

（株）A-Plusは、田村市に定植から収穫、包装までを専用に開発されたロボットが行う完全閉鎖型の植物工場を整備しました。最先端の工業技術や栽培技術を国内外に広め、若い人が魅力を感じる新しい農業のかたちをつくり、安全・安心な野菜の安定供給を目指します。

取組事例紹介

田園風景の再生

水田整備が進む浪江町に、カントリーエレベーターが2基建設されました。約600ha分の水稲作付に対応可能であり、年々作付面積が拡大している浪江町の営農がさらに加速し、震災前のような田園風景がよみがえることが期待されています。

棚塩カントリーエレベーター（自動ラック式）

苅宿カントリーエレベーター（丸ビン式）

地域と連携した企業の農業参入

浪江町では、2021年から群馬県でネギを栽培している（株）群馬電機工業と（有）青高ファームが地域の農家と連携して参入しました。今後100haの規模拡大を目指して営農が進められています。

取組事例紹介

新たなコメの活用

（株）スマートアグリ・リレーションズは、休耕地・耕作放棄地等を有効活用し、環境にやさしい米由来のバイオマスプラスチック「ライスレジン」の原料となる資源米の生産で地域活性化や農業支援を行うため、2021年より浪江町で栽培、収穫を開始しました。地域と連携した面積の拡大による収量増やAI・IoTを活用した無人農業の実現を進めています。

企業農業参入研修会

町村等の受入側の対応や対策等について情報収集し、企業の農業参入推進の参考にしていただくために開催しました。

先端農業フェア

浜通り地域等における農林水産業の成長産業化の推進を図るため、実際に見て触れる体験型の展示やデモンストレーション、講演、サイエンスカフェ等を実施しました。来場された方々にイノベ構想、スマート農業を知っていただく機会になりました。

現地視察ツアー

浜通り地域等に参入を検討している企業様を対象に、浜通り地域等の現状を理解していただき、参入を誘導するため開催しました。参加企業から参入の検討が進んでいます。

INTERVIEW インタビュー　かわうちワイン株式会社

村にワイン文化を根付かせて「かわうちワイン」を一大交流拠点に

かわうちワイン株式会社
統括マネージャー
遠藤（えんどう） 一美（かつみ）さん

川内村は11年前の2011年、東日本大震災及び福島第一原発事故の影響により全村避難を余儀なくされました。2016年に避難指示が全面解除され、村は農業再生、新たな産業創出の取組を始めました。その一つがワイン用のブドウ栽培でした。2016年、標高750mに広がる牧草地だった場所を「高田島ヴィンヤード」と名付け、ワイン用のブドウ栽培を始めました。以来、大勢のボランティアの力を借りながら、現在までメルロー、シャルドネ、カベルネ・ソーヴィニヨンなど約12,000本を植えました。2017年にはかわうちワイン株式会社が設立、2021年6月にはかわうちワイナリーがオープン。当地圃場で収穫したブドウを仕込み、豊かな香りを引き出すため低温で熟成させ、もうすぐお披露目するところまで来ました。

高田島ヴィンヤードに広がるブドウ畑

村にはこれまで水稲用育苗ハウスを活用し生食用のブドウを栽培する農家はありましたが、ワイン用のブドウを栽培する農家はいませんでした。そのため、枝の剪定や病害虫の防除を始めとするブドウの栽培法については、県の果樹研究所や普及所の方などから一から教わり、試行錯誤を繰り返しながら経験を積み重ねてきました。ブドウの栽培は今年で7年目になりますが、この土壌にどの品種が合うのか試験栽培を続けており、品種で異なる収穫日の調整が現在の課題です。将来の構想としてはワイナリーを核とした賑わい創出を進めていくためにもワイナリー周辺にレストランや宿泊場所の整備も検討していきたいと考えており、実現すれば、村内の観光施設とも連携しながら村の一大交流拠点になるのではと考えています。また、将来の人材育成に向けた取組として、村内外の子どもたちに栽培・収穫体験も実施していきたいと考えています。今春に完成したワインは村の支援をいただきながら村全世帯に1本ずつ配られる予定ですが、これを機にワイン文化を村に根付かせていきたいと思います。そのためにもワイナリーで美味しいワインを、そして村民に愛されるワインをつくり、事業基盤を確かなものにしていきたいですね。

醸造タンクの温度をチェックする遠藤さん

プロジェクト5

技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

医療関連

高齢化や医療・介護人材の不足が進む浜通り地域等において、医療関連産業の集積を図るとともに、企業等の新規参入を促進しています。

企業への就職や定着を図る

医療関連産業を担う人材育成

県内若手技術者のスキルアップや、大学生・高校生に医療機器への関心を高めることで、県内医療関連ものづくり企業への就職や定着を図っています。

医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設

ふくしま医療機器開発支援センター

医療機器に関する安全性評価や事業化支援、医療従事者へのトレーニングを通じて、福島県の強みである医療関連産業の伸展と、日本の医療機器関連産業の振興に貢献しています。安全性評価では、電磁波に関する影響を調査するEMC試験や大型動物（実験用ブタ）を用いた生物試験などを実施しています。また、新規参入や開発過程における課題について、法規制のコンサルティングや連携する企業のマッチング、医療現場へのヒアリングなど、様々なサポートを行っています。浜通り地域等においては、医療・介護関連の事業に取り組む企業に対し、製品開発の支援や現場ニーズを取り入れて製品を改良するための実証先の確保などを行っています。

ふくしま医療機器開発支援センターにおいて、
医療従事者に対するトレーニングを実施しています。

取組事例紹介

医療関連分野の販路開拓支援

医療機関・高齢者福祉施設等の現場ニーズを反映した製品の導入や改良等の取組を支援しています。原発事故の影響による高齢化の進行や人手不足などの課題を抱える浜通り地域等において先駆的なモデル事業として実施し、医療関連産業の集積につなげています。

介護ロボット「ふくちゃん」[富士コンピュータ(株)]

メディカルクリエーションふくしま

医療機器関連メーカーと地域製造業・大学との技術交流の場として、地域製造業が得意とする製造技術の展示と医療機器関連メーカーによる最新医療機器の展示を同時に行い、研究開発担当者・エンジニア間の活発な技術交流によって、新技術開発、新商品の創出を促進しています。

メディカルクリエーションふくしま大賞授賞式

プロジェクト6

“空飛ぶクルマ”の実証や関連企業を誘致

航空宇宙

航空宇宙産業の育成・集積に向けて、参入する企業の支援や産業を担う人材育成に取り組んでいます。

ロボット・航空宇宙フェスタ2021では、子どもたちがANAによる飛行機誘導「マーシャラー」を体験しました。

航空宇宙産業に挑戦する人材を育てる

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2021

2021年11月に、ビッグパレットふくしまで開催。1日目はビジネス向け展示・商談会、2日目は一般向け展示会、両日合わせて計4,500名の来場者で賑わいました。特に2日目は、次世代を担う子どもたちが目を輝かせて、ロボットや航空・宇宙関連の体験イベントやブースで楽しむ様子が見られました。

取組事例紹介

国際商談会出展支援

県内企業の販路拡大に向け、国際商談会出展への支援を行いました。2021年は「エアロマート名古屋」への出展を支援しました。県内企業8社が参加し、延べ80件の商談機会を提供することができました。

ふくしま次世代航空戦略推進協議会設立

2021年9月、福島ロボットテストフィールドにおいて、「ふくしま次世代航空戦略推進協議会（FAS）」の設立総会及びシンポジウムが開催されました。FASは、浜通り地域等を拠点に、次世代航空モビリティの研究開発に取り組む民間企業により設立されました。今後は、産学官等の連携により、福島県における次世代航空戦略振興のため、地域での人材育成、産業振興、企業誘致、創業ベンチャー支援、実証環境の充実等を進めます。

中京地区等航空機関連メーカーとの商談支援

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2021開催と同時に、中京地区等の航空機関連メーカー（Tier1、Tier2）を14社誘致し、浜通り地域の事業者を含む県内航空関連事業者6社との商談会を開催しました。計20件の商談会を実施し、取引に向けての企業間の繋がりを提供しました。今後も県内航空関連事業者の取引拡大を支援します。

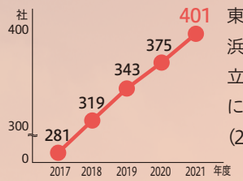
実現に向けた取組１

企業誘致と地域内外企業の事業化を支援

産業集積

浜通り地域等における新たな産業集積の実現と既存産業の復興再生に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図るとともに、進出企業等と地元企業の交流、ビジネスマッチングを促進しています。

多くの企業が浜通り地域等に進出



東日本大震災以降、浜通り地域等の立地件数は401件にのぼります。（2022年1月末現在）

浅野撚糸（株）（本社：岐阜県）
双葉町中野地区復興産業拠点にて主力商品のタオル「エアーかおる」や町の復興を願い商品化したタオルマフラー「ダキシメテフタバ」などの材料となる撚糸（ねんし）を製造。工場に併設してカフェ・ショップなどを建設しています（2023年4月操業開始予定）。

（株）アイリスプロダクト（本社：宮城県）
南相馬市復興工業団地にてアイリスグループのノウハウを活用したロボットによる高効率生産ラインを導入し、人工芝、脱酸素剤、建材用平板・波板等を製造しています（2022年4月操業開始）。

豊通リチウム（株）（本社：楢葉町）
楢葉南工業団地にて車載用2次電池等に用いられる水酸化リチウム精製工場を建設しています（2022年操業開始予定）。

（株）バイオマスレジン福島（本社：南相馬市）
浪江町北産業団地にて食用に適さないお米を活用したバイオマスプラスチック樹脂「ライスレジン」の製造工場の建設を計画しています（2022年11月操業開始予定）。

大橋機産（株）（本社:埼玉県）
田ノ入工業団地（川内村）にて北米向け建設機械である「コンパクトトラックローダー」の部品を製造しています（2021年5月操業開始）。

ロボコム・アンド・エフエイコム（株）（本社:東京都）
南相馬市復興工業団地にてデジタルとリアルの融合により実現した24時間完全無人化ラインを備える次世代型モノづくりの基幹工場となるデジタルファクトリーを開設し、ロボットSIerの後方支援を行っています（2021年6月操業開始）。

取組事例紹介

企業誘致に向けた取組

企業立地セミナー

浜通り地域等の優れた立地環境をＰＲする企業立地セミナーを東京で開催しています。また、進出検討企業を対象とした産業団地、商業施設、医療機関等を視察するツアーも実施しています。

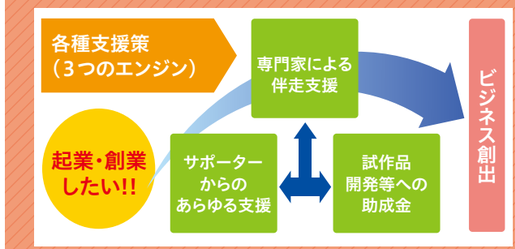
新たな取引先との出会いの創出

ふくしまみらいビジネス交流会

浜通り地域等の企業等が、新たに進出した（しようとする）企業や研究開発に取り組む企業等と交流・商談できる機会として「ふくしまみらいビジネス交流会」を開催しています。

Fukushima Tech Create

浜通り地域等で起業・創業を目指す企業等に対し、専門家を活用した伴走支援によるアイディアの具現化、市場調査や試作品開発などの助成金、サポーターによる実証場所の提供等により、浜通り地域等に新たなビジネスを創出します。



地域振興実用化開発等促進事業

研究開発を進めるオリジナル長距離無人航空機

イノベ構想の重点分野（廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙）について、地元企業等と連携して行う実用化開発等を支援しています。

福島イノベ倶楽部

異業種間の連携、地域間の連携、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指す異業種交流のための場として「福島イノベ倶楽部」を2020年2月に設立し、視察会や研修会等の実施を通して会員間の交流を促進しています。

ふくしま医療機器開発支援センターでの視察会

事業化を目指す事業者を伴走支援

新分野展開ビジネスセミナーでの商談

「地域復興実用化開発等促進事業」の採択企業（158社・団体）等を対象に、ビジネスモデルや販売戦略の策定支援、想定顧客リストの作成、各種マッチング、資金確保、特許出願をはじめとした戦略的な知的財産保護等、各企業の課題解決に向けた支援を実施しています。

実現に向けた取組1

産業団地の整備や企業立地の促進

産業集積

浜通り地域等15市町村における新たな産業集積の実現に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図っています。

企業進出事例

いわき市 143件

会川鉄工(株)

1 いわき四倉中核工業団地第1期区域 33.6ha
- ◆根本興産(株)　(いわき市／セメント・同製品製造業)
- ◆(株)成栄　(いわき市／建設用・建築用金属製品製造業)
- ◆(株)金子製作所　(埼玉県／医療用機械器具製造業)
- ◆(有)小野川製作所　(いわき市／電子部品・デバイス・電子回路製造業)
- ◆メルテックいわき(株)　(いわき市／窯業・土石製品製造業)
- ◆会川鉄工(株)　(いわき市／金属製品製造業)

2 いわき四倉中核工業団地第2期区域 17ha
- ◆東新工業(株)　(横浜市／めっき加工業)
- ◆(株)ニッチュー　(東京都／金属加工機械製造業)

田村市 24件

(株)デンソー福島

6 田村市産業団地 12.5ha
- ◆(株)トプコンオプトネクサス
  (田村市／光学機械器具・レンズ製造業)

7 田村西部工業団地 64.1ha
- ◆(株)デンソー福島　(田村市／輸送用機械器具製造業)
- ◆(株)トッキュウ　(北海道／道路貨物運送業)

8 (仮称)田村市東部産業団地 21.0ha
2023年10月供用予定

川内村 8件

(株)リセラ川内工場

24 田ノ入工業団地 7.0ha
- ◆(株)リセラ　(岡山県／繊維工業)
- ◆大橋機産(株)　(埼玉県／建設機械・鉱山機械製造業)
- ◆(株)農　(千葉県／食料品製造業)

その他のエリア
- ◆(株)菊池製作所　(東京都／金属製品製造業)
- ◆コドモエナジー(株)　(大阪府／窯業・土石製品製造業)
- ◆ケミカル川内(株)／さつき(株)　(川内村／窯業・土石製品製造業)

川俣町 8件

ミツフジ(株)

12 川俣西部工業団地 7.7ha
- ◆ミツフジ(株)　(京都府／繊維工業)
- ◆(有)カミノ製作所　(川俣町／輸送機械器具製造業)

13 羽田産業団地 1.9ha
- ◆ベルグ福島(株)　(川俣町／耕種農業)

14 中山工業団地 3.5ha
- ◆アサヒ通信(株)　(福島市／電気機械器具製造業)

その他のエリア
- ◆川俣精機(株)　(川俣町／電気機械器具製造業)
- ◆(株)日ピス福島製造所　(川俣町／輸送機械器具製造業)
- ◆NOKメタル(株)　(宮城県／輸送機械器具製造業)

新地町 7件

石油資源開発(株)

34 新地南工業団地 8.0ha
- ◆(株)ソーカ　(山形県／非鉄金属鋳物製造業)
- ◆(株)リード　(神奈川県／生産用機械器具製造業)

35 駒ヶ嶺工業用地 2.0ha

その他のエリア
- ◆石油資源開発(株)　(東京都／ガス業)

相馬市 34件

(株)IHI

3 相馬中核工業団地西地区 68.5ha
- ◆(株)IHI　(東京都／輸送用機械器具製造業)
- ◆オリエンタルモーター(株)　(東京都／電気機械器具製造業)

4 相馬中核工業団地東地区 284.7ha
- ◆相馬エネルギーサポート(株)　(東京都／倉庫業)
- ◆(株)ADEKA　(東京都／化学工業製品製造業)

5 相馬南第二工業団地 5.5ha

その他のエリア
- ◆(株)アイ・テック　(静岡県／建築材料、鉱物・金属材料等卸売業)

葛尾村 3件

金泉ニット(株)

32 葛尾村産業団地 2.8ha
- ◆金泉ニット(株)　(愛知県／繊維工業)

33 葛尾村東部産業団地 2.9ha
- ◆福島パルムシー(株)　(葛尾村／木材・木製品製造業)

南相馬市 65件

(株)井部製作所

9 信田沢工業団地 4.6ha

10 復興工業団地 12.4ha
- ◆ロボコム・アンド・エフエイコム(株)
  (東京都／生産用機械・関連部品製造業)
- ◆(株)アイリスプロダクト　(宮城県／プラスチック製品製造業)
- ◆(株)テラ・ラボ　(愛知県／情報サービス業)

11 下太田工業団地 13.3ha
- ◆(株)井部製作所　(東京都／金属素形材製品製造業)
- ◆(有)ワインデング福島　(南相馬市／電気機械器具製造業)

その他のエリア
- ◆三和化学工業(株)　(東京都／無機化学工業製品製造業)
- ◆東北アクセス(株)　(南相馬市／道路旅客運送業)

浪江町 21件

フォーアールエナジー(株)

28 浪江町北産業団地 3.7ha
- ◆(株)バイオマスレジン福島　(南相馬市／プラスチック製品製造業)

29 浪江町南産業団地 19.3ha
- ◆會澤高圧コンクリート(株)　(北海道／窯業・土石製造業)

30 浪江町棚塩産業団地 38.5ha

31 浪江町藤橋産業団地 6.7ha
- ◆フォーアールエナジー(株)　(神奈川県／電気機械器具製造業)
- ◆富士コンピュータ(株)　(兵庫県／情報サービス業)

その他のエリア
- ◆LEシステム(株)(福岡県／電気機械器具製造業)

大熊町 5件

大熊中央産業拠点

25 大熊西工業団地 9.0ha
2023年4月　一部供用予定

26 大熊中央産業拠点 9.0ha
2022年12月　一部供用予定

富岡町 21件

富岡産業団地

21 富岡産業団地 21.9ha
- ◆宮田運輸(株)　(大阪府／一般貨物自動車運送業)
- ◆(株)片山製作所　(岐阜県／非鉄金属製造業)

22 富岡工業団地 24.1ha
- ◆(株)アトックス　(東京都／倉庫業)

23 富岡第二工業団地 6.1ha

その他のエリア
- ◆(株)蓬人館　(いわき市／宿泊業)

楢葉町 21件

(株)エヌビーエス

18 竜田駅東側事業用地 6.2ha

19 楢葉北産業団地 15.7ha
- ◆アンフィニ(株)
  (大阪府／電気機械器具製造業)
- ◆(株)エヌビーエス　(東京都／ガラス・同製品製造業)

20 楢葉南工業団地 33.4ha
- ◆豊通リチウム(株)　(楢葉町／無機化学工業製品製造業)
- ◆住鉱エナジーマテリアル(株)　(東京都／無機化学工業製品製造業)

その他のエリア
- ◆(有)ウインズトラベル　(楢葉町／道路旅客運送業)

広野町 24件

富士フィルムワコーケミカル(株)

15 広野工業団地 45.2ha
- ◆富士フィルムワコーケミカル(株)
  (神奈川県／医薬品製造業)
- ◆(株)レイス　(東京都／化学工業)

16 広野駅東側産業団地 5.0ha
- ◆(株)大和田測量設計　(広野町／情報サービス業)
- ◆ひろのプログレス(合)　(東京都／宿泊業)

17 東町産業団地 5.0ha
2023年4月供用予定

飯舘村 8件

(株)菊池製作所

その他のエリア
- ◆(株)菊池製作所　(東京都／金属製品製造業)
- ◆(有)斉藤製作所　(飯舘村／生産用機械器具製造業)
- ◆(株)ハヤシ製作所　(飯舘村／金属製品製造業)

双葉町 9件

中野地区模型

27 中野地区復興産業拠点 34.5ha
- ◆双葉中央アスコン(企業共同体)
  (双葉町／舗装材料製造業)
- ◆(株)アルメディオ
  (東京都／炭素・黒鉛製品製造業)
- ◆浅野撚糸(株)
  (岐阜県／ねん糸製造業)
- ◆(株)アルムシステム(北海道／宿泊業)

※市町村名の隣の件数は、
企業立地補助金の採択件数(2022年1月末現在)
※立地企業は主要な事例を記載

産業団地情報の
詳細はこちらから

実現に向けた取組2

浜通り地域等の未来を担う若い力を育てる

教育・人材育成

大学等による教育研究活動の活性化に向けた取組を進めるとともに、小中学校、高等学校における企業や高等教育機関等と連携したキャリア教育を実施し、浜通り地域等の復興の核となる高い志を持った若い力を育成していきます。

大学等の教育研究活動を支援
「復興知」事業

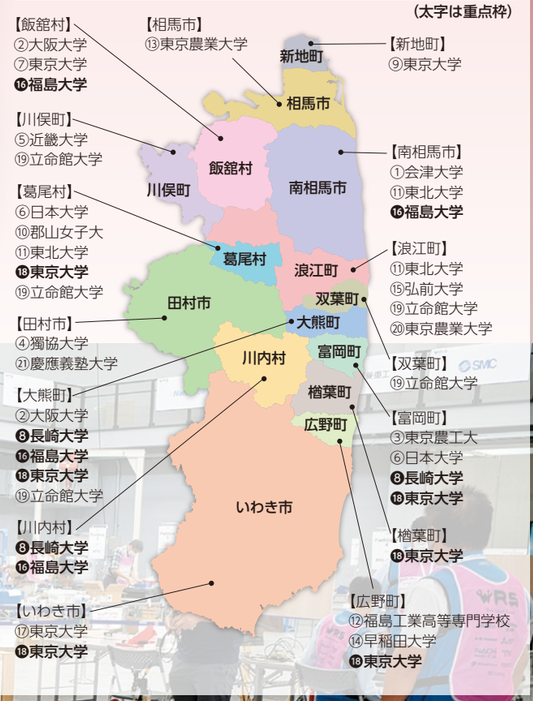
全国の大学等が有する福島復興に資する知を、浜通り地域等に集積・活用するため、地域内で教育研究活動を行う大学等を支援する「復興知」事業を実施しています。2021年度に5カ年の事業として17大学等21事業を採択しました。

会津大学×南相馬市

福島大学や福島県ハイテクプラザ、南相馬市内のロボット関連企業等と連携し、市内の高校生を対象としたプログラミング演習やロボット技術演習を行うなど、浜通り地域等におけるロボット・ICT人材の育成を行っています。ワールドロボットサミット2020では、南相馬チームのロボット「MISORA」の操作訓練を支援し、南相馬チームは2位に入賞しました。

2021年度大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業採択大学等一覧

（太字は重点枠）



【飯舘村】
②大阪大学
⑦東京大学
⑲福島大学

【相馬市】
⑬東京農業大学

【新地町】
⑨東京大学

【川俣町】
⑤近畿大学
⑲立命館大学

【南相馬市】
①会津大学
⑪東北大学
⑲福島大学

【葛尾村】
⑥日本大学
⑩郡山女子大
⑪東北大学
⑱東京大学
⑲立命館大学

【浪江町】
⑪東北大学
⑮弘前大学
⑲立命館大学
⑳東京農業大学

【田村市】
④獨協大学
㉑慶應義塾大学

【双葉町】
⑲立命館大学

【大熊町】
②大阪大学
⑧長崎大学
⑲福島大学
⑱東京大学
⑲立命館大学

【富岡町】
③東京農工大
⑥日本大学
⑧長崎大学
⑱東京大学

【川内村】
⑧長崎大学
⑲福島大学

【楢葉町】
⑱東京大学

【いわき市】
⑰東京大学
⑱東京大学

【広野町】
⑫福島工業高等専門学校
⑭早稲田大学
⑱東京大学

企業や高等教育機関との連携プログラム
イノベーション人材育成

高等学校では、構想を担う高い志を持つ人材育成のため、企業、大学、研究機関等と連携して、最新技術、課題解決の取組等を学ぶ講義や実地研修等を行う実践的な教育プログラムを実施しています。

工業分野の人材育成・確保

小高産業技術高校×テクノアカデミー浜

先進企業の技術・生産工程の見学やプログラミングによるロボット操作、自然エネルギー発電など、先端技術の実習等を取り入れた工業分野の人材育成と地元への定着を促進しています。

※イノベ対象校　イノベ対象校とは、構想を牽引するリーダー、工業・商業・農水産業の未来を担う専門人材を育成する浜通り地域等の高校です。その活動で得られた有用かつ実践的な取組を中通り及び会津地域の専門高校へ展開しています。

トップリーダー：磐城高校、相馬高校、原町高校
農 水 分 野：磐城農業高校、相馬農業高校、小名浜海星高校
工 業 分 野：平工業高校、勿来工業高校、川俣高校
商 業 分 野：平商業高校
専門人材育成校：福島県全域（浜通り、中通り、会津）の実業高校
先　進　校：ふたば未来学園高校、小高産業技術高校

イノベ人材の裾野の拡大

構想に係る職業や産業への興味・関心を醸成するとともに、将来に対する夢や希望を膨らませることにより、将来の福島を担う人材の育成に向けて裾野を広げています。

『ふるさと』への“思いを育む”教育プログラム

双葉郡8町村の小中学校では、地域の「ひと」、「もの」、「こと」を題材にした探求的な学習『ふるさと創造学』を通じて、地域への思いや自分の未来、地域の未来を切り拓く力を育んでいます。

ふるさと創造学サミット
富岡第一・第二小学校三春校

避難地域12市町村小中学校での魅力ある教育の推進

山木屋中学校×福島大学

避難地域12市町村の小中学校において、自然体験林を活用して動物の生態を学ぶなど、地域の特色等を生かした魅力的な教育に取り組んでいます。

高等教育機関等への支援

福島大学、日本大学工学部、福島工業高等専門学校、テクノアカデミーといった“ものづくり系”の高等教育機関等に対し、先端企業の見学を行う等、浜通り地域等に関わる支援を行っています。

取組事例紹介

近畿大学×川俣町

オール近大として大学・学生の「知」を生かし、川俣町における農業・観光などの産業振興や除染研究、地域コミュニティの再生に資する教育研究活動を行い、「復興人材」の育成に向けて取り組んでいます。これらの活動を通して、地域資源を活用した新商品も生まれています。

大阪大学×飯舘村・大熊町

飯舘村と大熊町における土壌・葉の採取や空間線量の測定、視察や地域の方々との交流による浜通り地域等の現状の認識を通して、学生間で議論を行い、問題解決力を身に付ける人材育成を行っています。

長崎大学×川内村・富岡町・大熊町・双葉町

福島県立医科大学・福島大学・東日本国際大学の福島県内3大学、さらに国際放射線防護委員会や世界保健機関等の国際機関と連携し、川内村・富岡町・大熊町・双葉町における災害・被ばく医療科学の実践学習を通して、世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「知の交流拠点」の構築に向けて取り組んでいます。

「復興知」事業活動報告会

採択大学等の教育研究活動を広く発信する「復興知」事業活動報告会を開催しています。2021年度は、新地町で開催し、全採択大学等の参加による活動紹介・ポスターセッション、代表校の教員及び学生による活動報告を行いました。

INTERVIEW インタビュー　福島県立小名浜海星高校

「生分解性プラスチック生分解実験」で世界規模の課題解決に取り組む

私たちは県内唯一の水産科を有する高校として様々な学習をしています。現在、微生物の働きによって水と二酸化炭素等に分解される「生分解性プラスチック」の生分解実験を小名浜港で実施しています。その様子を、水中ドローンを活用し観察しています。実験で得られたデータが、世界規模の課題である「海洋プラスチック問題」の解決に少しでも貢献できればと思っています。

また、2021年7月から11月にかけ、土壌中におけるポリ乳酸カップの生分解の早さを競う「生分解」コンテストが開催され、県内の高等学校8校148名が参加しました。私たちの取組が県内に広がったことはとてもうれしく、今後も環境問題・SDGsについて学び取り組んでいきます。

小名浜港での海洋実験の様子

実現に向けた取組3

構想に共感する人々の輪を広げる

交流人口の拡大

域外から企業や人材を呼び込み、構想や浜通り地域等に様々なかたちで関わっていただくための交流人口・関係人口拡大に取り組んでいます。

パレットキャンプ福島では、福島県復興祈念公園において、双葉郡地域観光研究協会のインターン生である東北大学生指導のもと、朝日の中でヨガを実施しました。

取組事例紹介

パレットキャンプ福島（双葉町）

双葉町の復興まちづくりを支える多様な人材の確保を目指し、双葉町の魅力を体験するツアーを開催しました。企画・運営は、まちづくりに意欲を持つ東北大学の学生たちが中心となって進め、首都圏の大学生など約30名が参加しました。街なかの様子を直に見るなどし、参加者からは「被災地の問題を考えるきっかけとなった」という意見が出ました。

※事業実施団体：（一社）双葉郡地域観光研究協会

交流・関係人口拡大に資するコンテンツを開発

「地域価値向上に向けたブラッシュアップ事業」

イノベ構想に共感し、浜通り地域等との絆を結んでいただくため、企業や若者を呼び込む交流事業を実施しました。

取組事例紹介

ふくしまイノベサイクルロゲイニング大会（相馬市・南相馬市・双葉町・浪江町・新地町）

浜通り地域等の「今」を楽しみながら体験し、何度でも訪れていただけるよう、サイクルロゲイニング大会を開催しました。県内外から約140名が参加し、福島ロボットテストフィールドや東日本大震災・原子力災害伝承館などの構想に関連する拠点施設を自転車で巡ったほか、観光施設や食など浜通り地域等の魅力を満喫しました。

※事業実施団体：（株）郡中トラベル

見える化セミナー

県民の皆さんに構想を身近に感じていただけるようセミナーを開催しました。空飛ぶクルマやロボット・ドローンの研究開発など、私たちの生活に変化をもたらす可能性がある取組の紹介や地域活性化のために活躍している方々の取組を紹介しました。

開催地	テーマ
郡　山　市	福島イノベーション・コースト構想と私たちのつながり
楢　葉　町	活気ある楢葉まちづくりに向けて
会津若松市	福島イノベーション・コースト構想と私たちのつながり
浪　江　町	なみえ発。持続可能なまちづくりを目指して

バーチャルオンラインツアー

浜通り地域等では、様々な分野の企業が先進的な事業に挑戦しているほか、多くの若者が「ここならば自分のやりたいことができる」という思いのもとに活躍しています。これからの浜通り地域等の担い手として期待される大学生を対象に、企業代表者や地域で活躍する人々と双方向で交流するオンラインツアーを開催しました。

オーダーメイド視察

浜通り地域等において活動を検討している企業や教育研究機関、団体等を対象に、福島ロボットテストフィールドなど各種拠点施設や先端的な技術開発に取り組む企業の視察をオーダーメイド方式で実施しています。

実現に向けた取組3

移住・定住促進の拠点を新たに設置

交流人口の拡大

［ふくしま12市町村移住支援センター］

働きたくなる、暮らしたくなる、チャレンジできる 12 市町村を共に創ることを通じて福島の復興と創生を進めます。

ふくしま12市町村 移住支援センターの開所

浜通り地域等の産業回復、復興まちづくりを進めるためには、地域の担い手となる人材の確保が不可欠です。12市町村への移住・定住促進及び広域連携が効果的な事業や移住施策の支援等を行うため、福島県がふくしま12市町村移住支援センターを2021年7月に設置しました。

ふくしま12市町村の住環境を見ていただくツアーを開催しました。
生活環境等を視察することにより、移住するイメージを持っていただきました。

取組事例紹介

ふくしま 12 市町村への移住相談

福島第一原子力発電所の事故により避難指示等の対象となった12市町村への移住・定住を促進するため、移住に関する問合せ窓口を設置し、移住に際して必要な情報提供を行っています。

ふくしま 12 市町村移住セミナー

ふくしま12市町村の移住者から生の声を届けるだけでなく、自治体から現状の住環境に加え制度の説明を実施しています。移住関心層や移住顕在層へ適切な情報を発信し移住促進を推進します。

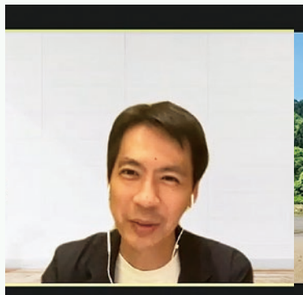
ふくしま 12 市町村移住体験ツアー

福島県外からの移住希望者が、ふくしま12市町村の現状を視察できるツアーです。各地域の移住者や自治体、地域の関係者等から直接生の声を聞く機会を提供し、移住促進を推進します。

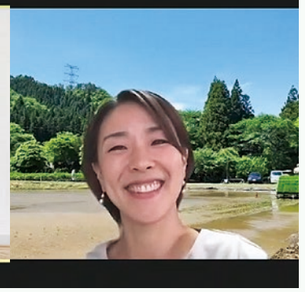
❖ 対　談

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故。事故後の先が見通せない状況が続く中、幼い頃から慣れ親しんできた双葉郡の現状を知りたいとIターンすることを決意した佐藤亜紀さん。現在は、大熊町で日々の暮らしの様子を発信するほか、イベントの企画運営や視察対応など様々な活動を行う佐藤さんに、ふくしま12市町村移住支援センターの藤沢センター長が、移住に際しての思いや現在の暮らしぶりなどを伺いました。

地域全体で移住する若者を応援 チャレンジできる福島県浜通りへ



ふくしま12市町村移住支援センター
センター長
藤沢（ふじさわ）　烈（れつ）



東京都から
福島県大熊町へ移住
佐藤（さとう）　亜紀（あき）さん

×

＜プロフィール＞
一般社団法人RCF代表理事。
東日本大震災をはじめ、全国での復興事業及び地方創生事業を展開している。

この地域の課題とずっと向き合っていきたい

藤沢　復興支援員として行ったコミュニティ支援はどんなお仕事でしたか。

佐藤　私は現在大熊町に住んでいますが、町民の96%が住んでいた場所はいまだ帰還できない区域となっています。復興支援員として行ったのは、全国各地へ散り散りに避難した町民の繋がりを再構築する仕事でした。餅つきや夏祭りのイベントの企画運営などを通して、避難先や大熊町内のコミュニティづくりを支援しました。

藤沢　いわき市から大熊町に移り住もうと思った理由は何ですか。

佐藤　この地域が抱える課題は、私が生きている数十年では到底解決するものではないというのを目の当たりにして、その課題に対して現地でずっと向き合いたいと思ったのが一番の理由です。その後、縁あって結婚したので、現在は主人がもともと住んでいた大川原地区の家で暮らしています。

藤沢　私もこの地域に長く関わっていますが、復興に関わる方の数は限られているので、一人の力は小さいかもしれませんがいろいろと関われる余地があると感じています。「HAMADOORI13」でこれからどんなことをやっていきたいですか。

佐藤　「HAMADOORI13」は、浜通り13市町村の広域連携を通して持続的な地域発展に貢献しようという団体です。その中の事業の一環として、若者の起業支援を行うため立ち上げたのが「フェニックスプロジェクト」です。東日本大震災復興支援財団様からご支援をいただき、事業費の補助や事業の伴走支援を行っています。「HAMADOORI13」のメンバーには、様々な業種の方がいるので、プロジェクトを通してつながりの輪を広げていきたいです。仲間を増やし地域全体で若者の応援体制を整備して、移住促進に貢献していけたらと思います。

何十回と足を運んでも、住んでみて分かる魅力がある

藤沢　休日は何をしているのか教えてください。

佐藤　休日はもっぱら農作業をしています。いい気分転換になるし運動にもなるんですよ。畑で採れたばかりの新鮮な野菜を、毎日食べています。

藤沢　それは都会ではできない贅沢な体験ですね。不便に思う点はありますか。

佐藤　車があればあまり不便は感じないですね。運転に慣れるのに少し苦労しましたが(笑)。

藤沢　最後に、これから移住を考えている方々にメッセージをお願いします。

佐藤　幼い頃から福島県に何十回と足を運んでいましたが、住んでみて分かることもたくさんありました。現在の浜通り地域は新しいことにチャレンジできる地域なので、実際に住んでその魅力に気付いていただきたいです。

藤沢　ありがとうございました。ふくしま12市町村移住支援センターとしても、以前からの住民と帰還者と移住者とが、繋がり合えるような場所ができることを目指していきたいと思っています。

実現に向けた取組4

構想の認知度アップで参画を促進

情報発信

構想の認知度を向上させ、参画を促進するための様々な情報発信を行っています。

東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

福島県が経験した地震・津波及び原子力災害という未曾有の複合災害からの経験と教訓を後世に継承し世界と共有する施設です。原子力災害を中心とした資料を収集・保存し、展示、教育・研究・研修に生かしながら、防災について考えます。

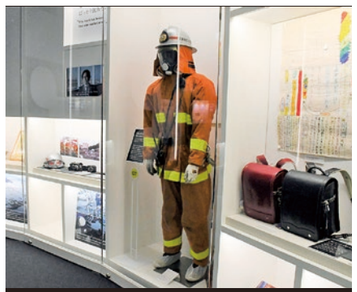
複合災害を知る、学ぶ（展示エリア）

震災前から震災当時、現在を通じて、複合災害がもたらしたものや、その後の過程を学ぶことができます。

プロローグ
震災前の地域生活から複合災害を経て、復興に向かう歩みを7面巨大スクリーンで表現。

1 災害の始まり
震災前の平穏な日常が複合災害により大きく変化した状況を時系列でたどります。

2 原子力発電所事故直後の対応
原子力発電所事故直後の対応や記録を後世に教訓として継承します。



3 県民の想い
証言や思い出の品などの展示を通して、故郷の変化に対する県民の想いを伝えます。

4 長期化する原子力災害の影響
長期化する原子力災害の影響への対応を解説や資料を通して学びます。

5 復興への挑戦
県民や行政が新しいまちづくりに挑戦する情報を発信し、福島の未来を考えます。

取組事例紹介

双葉町特集展

伝承館企画展示室に双葉町の資料を展示するとともに、町職員および学芸員が解説を行いました。映画上映会なども実施しました。来場者は約6,000人を数えました。

絵本企画展「絵本から学ぶ 子どもに伝える大震災」

伝承館スタッフが協力して発行した震災関連の絵本など約140冊を展示し、親子で震災を考える機会を創出しました。絵本作家等による対談も行いました。

❖ 対　談

語り部として、あの日の“経験”と“教訓”を次代へつなぐ

<プロフィール>
1968年長崎県生まれ。2008年より長崎大学原爆後障害医療研究所教授。被ばく医療学が専門。2020年より伝承館の館長を務める。

東日本大震災・原子力災害伝承館　館長
高村　昇（たかむら　のぼる）
×
伝承館　職員
横山 和佳奈（よこやま　わかな）
渡邉 舞乃（わたなべ　まいの）
遠藤 美来（えんどう　みく）

東日本大震災・原子力災害伝承館で行っている「語り部講話」。震災後の実体験を語っている横山和佳奈さん、渡邉舞乃さん、遠藤美来さん。震災と原発事故の“経験”と“教訓”を経験していない若い世代へつないでいくために。語り部としていま伝えていること、そして未来に向けて伝えていきたい思いを、高村館長と語り合いました。

大津波、原発事故、避難生活。記憶に刻まれた実体験

高村　皆さんが語っているストーリーの概略を教えてください。

横山　私は浪江町の請戸小6年生の時に遭った震災後に襲った大津波からの避難を中心に構成しています。情報が錯綜して心配と不安が募ったこと、大切な身内の命を失ったことなどを話しています。

渡邉　震災当時、私は南相馬市内の小学校3年生でした。私が話しているのは、発災当日の記憶や山形県での避難生活、南相馬に戻る時の葛藤、変わる小高区の様子などです。

遠藤　私もいわき市内の小学3年生でした。下校途中の地震の様子、原発が爆発して知り合いのつてを頼りに東京へ避難した時のこと、福島に戻りふたば未来学園高校で取り組んだことなどを話しています。

福島と浜通りの未来のために、自らの教訓を伝えたい

高村　仕事を通し今後何を伝えていきたいか教えてください。

横山　いざという時は安全な場所へ逃げること、安全な場所を日頃から知っておくことの重要性を伝えたいです。そして、すぐに避難すること、避難をためらわないことです。

渡邉　福島からの避難者が各地で嫌がらせや差別に遭った一方で、私が避難した山形では皆さんからとてもよくしていただきました。大変な時に支えていただいた感謝の思いを伝えたいです。

遠藤　私は津波も長期の避難生活も経験していませんが、当たり前のはずの日常が実は当たり前ではないことを学びました。震災後に温かく見守ってくれた地元の皆さんに恩返ししたいです。

高村　伝承館に来館される多くの学生の皆さんは、震災や原発事故を経験していません。その世代に、いかに“経験”と“教訓”をつないでいくか、福島と浜通りの未来に伝承館がどう貢献していくか、これからも一緒に考えていきましょう。

取組事例紹介

各種情報発信

幅広い年齢層に構想を理解していただくため、構想ポータルサイトやHama Tech Channel等のWEBや動画、各種SNS等にてわかりやすく情報発信を行っています。

構想を総合的に発信するシンポジウム

構想の進捗状況や復興に対する波及効果等について、幅広い層への認知を促進するとともに、本構想への理解を深化させることを目的としてシンポジウムを開催しています。